

特別支援学校で ネットモラル

ネットモラル

**特別支援教育を受ける子どもたちにも、
情報モラルを指導する必要性が高まって
きています。**



東京学芸大学附属特別支援学校
川井優子 先生

**中軽度の知的障害を持つ高校
1・3年生を対象に、情報モラ
ルの授業を行った川井優子先生
に、子どもたちの課題や指導の
ねらいを教えてくださいました。**

情報モラルを 指導したねらい

特別支援学校で情報モラルが課題となつています。特に心配しているのが「依存」です。宿題や家の手伝いを行うのも忘れて、タブレットやスマホで長時間遊んでしまう生徒が増えているのです。特にネットを使用して動画をダラダラと見てしまう生徒が多いですね。またトークアプリを使う生徒もこの数年で急増し、教師や保護者が気付かないうちに連絡先を交換するケースも出始めています。家庭のルールを確認し、正しく安全な利用について学習する必要があります。

「依存」という課題は通常学級に通う生

徒と同じですが、中軽度の知的障害を持つ生徒は、「好きなことをずっとやって、何が悪いの？」と考えがちです。学校に通っているうちは教師や保護者が目を配れますが、それにも限界がありますし、なにより社会に出て働き始めたら、自分で判断して行動しなければいけない場面が増えます。現在の自分の行動を振り返り、改善する力も付けていきたいと思います。

これほど社会にスマホやネットが普及している今、利用を禁止する指導は現実的ではありません。それに、スマホやネットを上手に使用すれば、子どもたちの世界は広がるんです。卒業生同士でLINEグループを作って同窓会を開いたり、仕事や習い事で知り合った人と交流したり、豊かな人間関係を築いている卒業生もいます。

スマホやネットを「上手に安全」に使える力、何が正しいかを自分で判断できる力を育みたい。そんな思いから、道徳の授業で情報モラルの指導を行ってみました。

動画教材を見て、考えさせる

道徳の授業を通して、自分や友達的生活習慣について考え、「節度・節制」の大切さを学ぶことで、スマホやネット利用にとどまらず生活全般を見直して改善させようと考えました。

そこで「事例で学ぶNetモラル」の動画教材「スマホ・ゲーム依存」を鑑賞して、まずは登場人物の何が問題かを考えた後、「自分だったらどうする？」と自分の身に置き換えて考えさせることにしました。

動画教材を使ってみて、これはいいなと実感しましたが、生徒たちは集中力が途切れやすい傾向があります。映された動画教材にみんな釘付けになったのです。登場人物が夜遅くまで使いすぎて親に叱られるシーンでは「あー!!」と笑い声が起きましたし、動画を見ながらうなずいたり、考え込んだりと、豊かな反応が見られました。

ストーリーを理解するのが苦手な生徒もいるのですが、動画教材なら理解しやすいこともわかりました。おかげで登場人物の問題点を考える時も、「スマホを夜遅くまでしないと約束していたのに、守らなかったのが問題」と、気づくことができました。

生活全般の改善に つなげられた

ここまでは50分の授業で、この前後に「起きる時間、寝る時間等の生活習慣」「自分だったら、どう改善する？」について考える授業を25分×2回ずつ行いました。「やめなきゃと頭でわかっていても、やめられない」という生徒のつぶやきを取り上げて、「節度・節制」について学び、「節度・節制」のあるスマホやネット利用とは？」と考えた結果、「ネットを見たくても我慢する」「やる日とやらない日を決める」という意見が出てきました。

さらに生徒たちには宿題を出し、「これから生活で改善すること」を一週間じっくり考え、目標を立てさせました。「ゲームをする時間を決めて、やりすぎないようにする」「ネットを見たくても、まずはやるべきことをやる」といったスマホやネット利用に関する目標にとどまらず、「夜遅くまでネットを見ず、規則正しい生活をする」「ゲームばかりせず、毎日運動する」といった、生活全般を見直す目標も出てきました。当初のねらい通り、「節度・節制」の価値観を学んで、生活全般を見直すきっかけとなったかなと思います。

しかし1回学んだだけでは、十分とは言えません。来年度以降も情報モラルの授業を継続したいですし、道徳の授業以外にも情報モラルの話題を取り上げ、学ばせたいと思います。

特別支援教育は一人ひとりの発達の特性に応じた指導が基本ですから、情報モラルの指導も目の前の子どもたちに合った授業を作りたいですね。教材を自作してもいいなと思いましたが、生徒同士で「学び合う」場面を設けるのも効果的かなと感じました。今回は一斉授業でしたが、上級生が「好きなことは思いっきり楽しんで、やる時は真剣にやる」と発言したのを受けて、下級生たちが自分の生活について見つめ直し、自分の目標に反映していたのが、とても印象的でした。

授業研究と教材研究を進め、今後も情報モラル指導に取り組みたいと思います。

特別な教育的支援を必要とする子どもたちの情報モラル

事例で学ぶNetモラルを使って、日常的な情報モラル指導をしてみませんか？
事例で学ぶNetモラルのアニメ教材なら、子どもたちが集中して学ぶことができます。

特別な教育的支援を
必要とする子どもたちに

事例で学ぶ
Netモラル が使いやすい

3つの理由

1 状況に応じた教材を選べる

小学1年生向けから中学生向けの教材が揃っているので、子どもの状況に応じたアニメ教材が使えます。

例えば 依存傾向について学びたいとき



C-24 ネット依存

「動画に集中しすぎると…」
(対象：小学1～4年)



C-19 スマホ・ゲーム依存

「やめられないスマホ・ゲーム」
(対象：小学3～6年、中学生)



A-23 トークアプリ依存

「スマホなしでは生きていけない」
(対象：小学5～6年、中学生)

※C-24は2019年度版より実装

2 保護者向けの資料や教材がある

様々な場面で使える配布資料や、保護者会で使える保護者用アニメが充実しています。

例えば 子どもが事例アニメを学んだあと

アニメの内容をマンガにした配布資料を保護者に渡します。



3 アニメだから集中して学ぶ

実写ドラマだと気が散ってしまう画面も、アニメだと子どもが集中して視聴します。

例えば 気が散らないシンプルな絵柄



👍 おすすめアニメ教材

詐欺被害



今すぐ
5,000円の
プリカを
買って来て
ください

こっちも
おすすめ



C-21 架空請求や不当請求
「あなたならどうする？」

C-22 ワンクリック詐欺
「安易なタップで…」

情報をうのみに



こっちも
おすすめ



A-26 情報の信憑性
「インターネットには間違った情報も存在する」

B-18 情報を発信するときの責任
「確かめなかったせいで」

ネットで知り合った人に…



こっちも
おすすめ



A-24 ネット上で知り合った人との約束は危険
「えっ！こんな人だったの！」

A-21 携帯ゲーム機
「ネットで知り合ったトモダチ」

スマホの使いすぎ



こっちも
おすすめ



A-22 スマホで課金
「気が付かないうちにこんなに…!？」

B-19 ネットショッピング
「とどいたけれど…」

事例で学ぶ
Netモラル

WEB体験版で3つのアニメ教材が今すぐ使えます。



A-23 トークアプリ依存
「スマホなしでは生きていけない」



B-24 写真の投稿
「私の写真、誰が見ているの？」



C-18 作った人の気持ち
「クラスのマーク“ピーチくん”」

指導資料

ワークシート

配布資料
(マンガで学ぶ)

キーシーン掛図

ついでです！

体験版はこちら
(Netモラル専用サイト)



<https://www.hirokyou.co.jp/netmoral/trial/>

広教ニュースレター は、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線でご活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO